

戦後60年 戦争をくりかえさないために

日本共産党
岡山市政ニュース

発行者 日本共産党岡山市議会議員団
岡山市大供1丁目1番1号(市議会内)
〒700-8544 電話(086)803-1000 内線4370・4371

司子 恵弥子
賢敏 光和泰
畑本 永沢 葉
田崎 竹藤 稲

No.214 (通222)
戦後60年特集号



▲2005年4月1日、岡山空襲資料館「へいわかん」が勤労者福祉センター1階に誕生。日本共産党市議団はくりかえし実現を求めてきました。

戦争、戦災の記憶を風化させないために

今年には戦後六十年、節目の年といわれています。「戦争体験者は、すでに七十五才を過ぎており、体験を語りつぐ点では、ラストチャンス」と語るの、「へいわかん」事務局長の片山和良さんです。憲法九条を変えようという

改悪の動きの中で、戦後六十年目は、「戦争や戦災を風化させない」という市民運動が活発になっています。(二面を参照)

「へいわかん」が勤労者福祉センターに誕生

今年四月一日に、岡山空襲資料館(通称「へいわかん」)が勤労者福祉センター一階に

オープンしました。平和館をつくらうという運動は、十八万人を超える市民の署名が寄せられるという市民の強い願いでした。旧出石小学校跡で「いずしかん」としてNPO

法人の手で運営されてきた岡山空襲資料館は、戦後六十年目に市民運動の力で「へいわかん」として誕生したのです。「へいわかん」は、空襲体験者の証言ビデオやDVDの作成、戦争遺品、資料収集の拠点になっています。集まった資料や実物が語り部となって、戦争を風化させない役割を担っています。

行政は本気で資料収集と収蔵庫整備を

「へいわかん」には子どもたちが平和学習に訪れ、また多くの関係者が来場します。そしてそれをきっかけに、当時の新たな情報が集まります。今、行政が本気で資料を収集し、収蔵庫をつくり、正確に記録を残す努力をすべきです。戦後七十年では遅すぎるのですから。

石山公園に「平和の礎」を

今年には節目の年ということ

ひと

青年の新しいうごきをつくりたい!



正司金一さん(26才)
(2005ピースエッグinおかやま実行委員会委員長)

昨年「3・20国際共同行動inおかやま」に参加。知人の「仲間がふえるよ!」のひと声がかきつけられた。それ以降、人生は激変。大工職人からNPO法人の専従へと転職した。「給料は減っても人からもらう豊かさはかけがえのないものだ」という先輩の言葉が心に残った。この二年は人生の転機だった。今年十月に、岡山で開催する「ピースエッグ」は、全国からの参加者が二泊三日で、班行動を通して語りあい、学びあう。戦後六十年の節目の年に、実行委員長をひきうけた。何か一つの方向へ向けて、青年の新しいうごきをつくり出したい!

(ピースエッグ事務局)
〇五〇―三五六八―七五五八

おすすめの本

「総動員の時代」

岡山・十五年戦争資料センター編
吉備人出版
税込み 二,〇〇〇円

「米軍資料で語る岡山空襲」

少年の空襲史科学
日笠俊男著(岡山空襲資料センター)
吉備人出版
税込み 七三〇円

